

## 雲南の旅

小木曾 史子

北はなく西東なく 南のみ雲南という妙なる韻ひびき

雲南に香ぐわしき名と探し当つ香格カク里拉リ また西シー双サン版バン納ナ

世界一の大き石臼据えられし 広場にて見る彝イ族の踊り

山のなだり高く高くにと家つづく 雨後の石道危くのぼる

中庭のテーブルのめぐり小さな縄製の椅子にわれら寛ぐ

店に沿いゆたかなる川石置柳樹つづける麗江旧市街

ポタージュのごとき黄河を思いおり水深く澄む雲南の川

意味のある象徴ならむ中庭の敷石描く大きな紋

真ん中に丸き穴ある八角の 石敷きつめし広場ありたり

石の色と雑草あらくさの緑 お互いに引き立て合いて生き生きと美し

北京とはまた違う味雲南の新聞に見る瀟洒なるイラスト

今も続く歌垣なりや仲人というもの無しと聞くお茶の席

杳とあき日の海の記憶の遠のきて 石林と彫るその赤き文字

「昆明池水漢時効」 ひたすらなる詠えい士の墨書思い帰らむ

八カ国語記しありたり昆明の 空港に買いたるマカデミアン・チョコ